

## < 仮説 >

高校生にも地域の子育て支援に関心を持ってもらうには、地域内での乳幼児との交流の機会があればよいのではないか

秋田県立湯沢高等学校 3年 斎藤水涼

### < 目的 >

- ・ 高校生に地域で行われている子育て支援に関心をもってもらうため、今回は特に**“子育て支援センター”**に注目
- ・ 知ってもらうことで**地元で子育てしたい人を増やす**

### < 背景 >

1年次、湯沢高校1年生に、湯沢市の子育て支援政策についてどれくらい知っているかアンケート調査を実施  
→ **生徒の3分の2以上がほとんどの支援を知らなかった**

### < 研究方法 >

- ① “子育て支援センター”を知っているかアンケート調査
- ② 実際に子育て支援センターを見学させてもらう

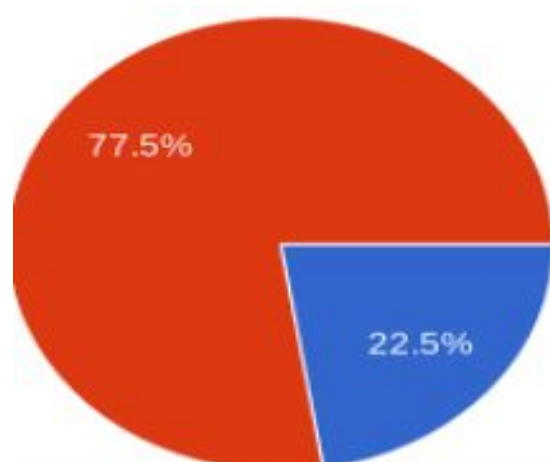


職員の方にインタビュー

- ③ 高校生と乳幼児との交流の機会を設けている地域はあるのか調査

### < 結果 >

① 子育て支援センターの名称は知っているが、具体的にどのようなことをしているのかは知らない⇒約80%



② インタビューから

Q.1 高校生に子育て支援センターがあまり知られていないことについて

A.1 高校生がセンターに来ることはないのだから、しかたない、しかし大人になって子供ができたときはぜひ利用してもらいたい

Q.2 高校生と乳幼児との交流について

A.2 小さな子どもたちは中学生や高校生など若いお兄さんお姉さんが好きなので、すぐ仲良くなれる

母親が赤ちゃんを育てているようだが実は母親も赤ちゃんに育てられているだから、高校生にとっても学ぶことがたくさんあるだろう

③ 乳幼児との交流を設けている地域

石川県：「親子交流授業」

東京都品川区：

「赤ちゃんとのふれあい事業」

愛媛県砥部市：

「赤ちゃんふれあい体験事業」

### < 考察 >

高校生も子育て支援センターに行くことで、どんなことをしているのか興味を持つ。そして乳幼児とふれあったり、お母さん方からお話を聞いたりすることで地域の子育ての取り組みを感じられる。

**子育て支援センターでの利用者と高校生の交流会を定期的に行えば地元で子育てしたいと思う人が増える。**



参考：内閣府ホームページ

# <提言>子育て支援センターで乳幼児との交流会を開く

(湯沢市)

- ・湯沢市子育て支援総合センター
- ・稲川子育て支援センター
- ・おがち子育て支援センター
- ・皆瀬子育て支援センター
- ・ふたば子育て支援センター

(他地域)

- ・横手9箇所
- ・羽後町1箇所
- ・東成瀬村1箇所

**高校生に希望者(できれば小さい兄弟などがいない人)を募り  
各センターに3人~5人ほどで訪問させていただく**

<日程>

- ・夏休み、冬休み、春休み期間
- ・それぞれのセンターで行事が開催される日など

**一年に数回の交流会を定期的に行き、  
生徒や場所をローテーションさせていくとよいのではないか**